

アワビ親貝（食用に供しないものに限る）の
塩酸オキシテトラサイクリン（OTC）による処理要領

(Ver 1.01)

キセノハリオチス症防疫対策ガイドラインに基づき、塩酸オキシテトラサイクリン（OTC）
処理を行う場合の要領は下記のとおり。

記

1. 餌の調整方法

1) 1日に給餌する分量の餌に混和する OTC 製剤量(g)は、下式①及び②により算出する。

$$\textcircled{1} \text{ 体重 } 1\text{kg} \text{ 当たりに必要な製剤量(g)} = 0.133 \times 100 / (\text{製剤中の OTC 含有}\%)$$

(注) 0.133g/kg は、アワビに対する OTC の必要な濃度（力価）

【例】 OTC20%散剤の場合

$$\text{体重 } 1\text{kg} \text{ 当たりに必要な製剤量(g)} = 0.133 \times 100 / 20 = 0.665\text{g/kg}$$

$$\textcircled{2} \text{ 1日分の OTC 製剤量(g)} = \text{投薬するアワビの総体重(kg)} \times \textcircled{1}$$

【例】 OTC20%散剤の場合

$$1\text{kg} \text{ のアワビに必要な製剤量(g)} = 1\text{kg} \times 0.665\text{g/kg} = 0.665\text{g}$$

2) 1日分の OTC 製剤量を溶解するのに必要な水量は、下式③により算出する。OTC 製剤
を溶解する水は、脱塩素した水道水を使用する。

$$\textcircled{3} \text{ OTC 製剤の溶解に必要な量 (ml)} \leq \text{1日分の給餌量(g)} \times \text{餌 } 1\text{g} \text{ 当たりの吸収可} \\ \text{能水量(ml/g)}$$

(注) 餌 1g 当たりの吸収可能水量は、餌により異なるため、事前に調べておく。

- 3) 脱塩素水道水に溶解した OTC 製剤を、1 日分のアワビ人工飼料に少量ずつ餌全体にまんべんなくゆきわたるように混ぜ、冷暗所（4℃、遮光）で一晩放置して薬液を十分餌に浸透させ、混和開始翌日から使用する。
- 4) 薬液に浸透させた餌は、使用開始日から 2 日後まで使用可能である。
- 5) 1 日 1 回連続して 2 週間投与する。投薬後は、通常の餌を給餌して飼育する。

2. 薬効の検査

- 1) OTC 投薬後 30 日目に PCR による糞便検査を実施し、効果を判定する。
- 2) 陰性であればガイドラインに従い、種苗生産に供する。
- 3) 陽性であれば、増養殖研究所の担当者と相談する。

問合せ先：

独立行政法人 水産総合研究センター 増養殖研究所 病害防除部

部長 前野 幸男

電話番号：0599-66-1830 FAX： 0599-66-1962